

86. 最新の「福祉・介護人材確保対策」から考える - 1

2019年11月10日

エッセイ 84 で、令和元年 9 月 18 日づけで掲載された厚生労働省福祉人材確保対策室「福祉・介護人材確保対策について」を Pdf で添付させていただきました。

覚えていますでしょうか。
再度添付します。

今後、5～6回のエッセイで、厚生労働省福祉人材確保対策室の「福祉・介護人材確保対策について」を基にしていろいろと考えてみたいと思います。

1. P2 2040 年までの人口構造の変化・・・生産年齢人口の激減
2. P6 有効求人倍率と地域別の高齢化の状況・・・平均 4, 08 倍、新潟 3, 17 倍
3. P10 介護人材確保の目指す姿・・・「まんじゅう型」から「富士山型」へ
4. P16～36 多様な人材の確保・育成・・・潜在的人材の掘り起こし
5. P38～41 生産性の向上・・・新技術への対応、業務改善の手引き
6. P43～62 メディアによる積極的情報発信・・・魅力の向上
7. P64～78 外国人材の受け入れ・・・新たな介護の担い手

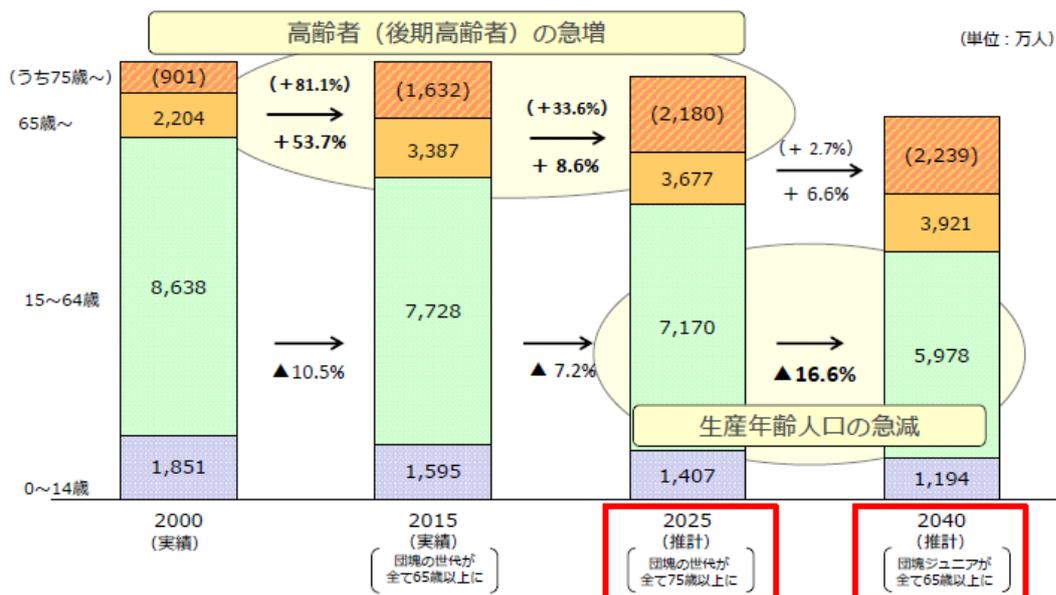
エッセイ 84 で私の感想を簡単に書きました。

『国の考えは、平成 29 年 10 月 4 日で福祉人材確保専門委員会が発信した「介護人材に求められる機能の明確化とキャリアパスの実現に向けて」以降、大きく変わっていません。

基本は、**介護事業者が人材を確保する仕組みを自分たちで創れ!**とっています。』でした。

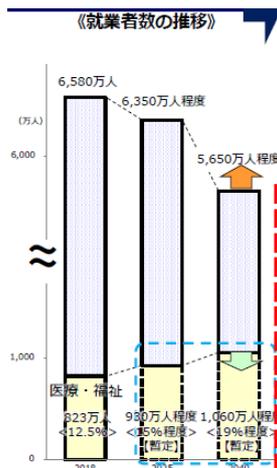
さて、下図は、p2 2015 年、2025 年、2040 年の人口構造の変化です・

【人口構造の変化】



(出典) 総務省「国勢調査」人口推計、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口 平成29年推計」

下図はp 4 就業者数の推移です。

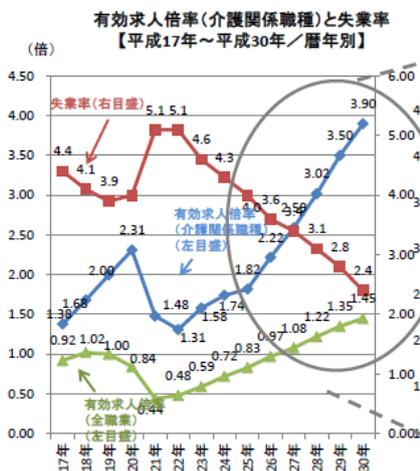


2025年、2040年ともに就業者数の激減
高齢者が増えることで、医療・福祉の従事者の必要数が増えてきています。計算上当たり前の結果です。

さて、従事者が本当に増えるのでしょうか？
なんか、この図には無理があるような気がします。

2018年、2025年 全体就業者数 ▲230万人
医療・福祉従事者 +157万人

下図はP5 有効求人倍率です。



介護の有効求人倍率は、4倍を越えています。
4人募集して1人しかこないということです。
(全産業の有効求人倍率は、1.37倍)

介護のイメージが良くない？

給与が安い？

魅力がない？

ここも介護保険制度上、無理が積み重なっている気がします。

下図は、p8 第7期介護保険事業計画に基づく介護人材の必要数です。

2016年度から比べて2020年に約26万人、2025年に約55万人が必要としています。

- 第7期介護保険事業計画の介護サービス見込み量等に基づき、都道府県が推計した介護人材の需要を見ると、2020年度末には約216万人、2025年度末には約245万人が必要。
- 2016年度の約190万人に加え、2020年度末までに約26万人、2025年度末までに約55万人、年間6万人程度の介護人材を確保する必要がある。
- ※ 介護人材数は、介護保険給付の対象となる介護サービス事業所、介護保険施設に従事する介護職員数に、介護予防・日常生活支援総合事業のうち従前の介護予防訪問介護等に相当するサービスに従事する介護職員数を加えたもの。
- 国においては、①介護職員の処遇改善、②多様な人材の確保・育成、③離職防止・定着促進・生産性向上、④介護職の魅力向上、⑤外国人材の受入環境整備など総合的な介護人材確保対策に取り組む。



皆様には、十分わかりきったデーターだと思います。
以下はもっと厳しい現実です。

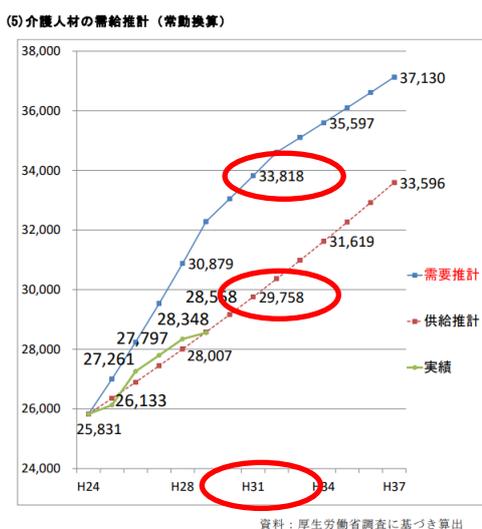
2020 年は、来年です。

国は 2016 年 190 万人に対して 2020 年 216 万人の約 26 万人の確保を計画していました。

さて、実際は、どの程度確保されているのでしょうか。

まだ、この全貌がわかるデーターはないようです。(もし、わかるようでしたら教えてください)

一つの目安として、平成 30 年 (2018 年) 新潟県介護人材確保対策会議での資料を下記に示します。



新潟県の平成 31 年 (2019 年) の需給バランスは、88%です。(29,758÷33,818=0.88)

この需給推計は、**2013 年度実績 171 万人**から作られています。(介護人材確保対策 参考資料)

2020 年の計画数に単純に新潟県の需給バランスで計算すると、216 万人×88%=190 万人の供給。

- ・ 2013 年から 2020 年までの 7 年間、190-171=19 万人の増 (年間 2.7 万人の増)
- ・ 計画は、216-171=45 万人の増予定 (年間 6.4 万人の増)

この計算は、大雑把です。根拠がないと言われてもしかたないところがあります。

(すみません！単純に 88%かける事自体間違いなのですが・・・)

しかし、全体像を見ることが出来ます。

国は、2013 年に計画、2013 年 171 万人実績から 2020 年 216 万人必要としています。

私の大雑把な供給予測は、2020 年 190 万人です。

2013 年実績から、年間 2.7 万人は増えていますが、計画 216 万人には 26 万人足りていません。

これが実態です。肌感覚的にも足りていなく感じます。

2025 年、55 万人増が見込まれています。今の年間 2, 7 万人増だと 5 年で 13.5 万人の増、すなわち 55-13.5=41.5 万人不足します。さて、皆様どうしますか。

本当に人がいない！！ 国は数字をいじっているように感じるのは私だけでしょうか。

エッセイ 87 で、国の数字を追求します。実態を知る事からはじまります！